さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

夜間中学設置を検討

県教委　不登校生の受け皿に

県教委は「夜間中学」と、「学びの多様化学校（旧不登校特例校）」の設置を検討している。設置可否や運営主体などについて市町村と連携しながら協議を進める。実現すれば県内では初めて。

〈小池直輝〉

夜間中学は、義務教育を受けられなかった人や外国籍の人、不登校経験者らが対象。国は全ての都道府県、政令指定都市に少なくとも1校の夜間中学の設置を目指している。2023年10月時点で17都道府県に44校が設置されている。

学びの多様化学校は不登校生の実態に配慮した授業時間の削減や習熟度に応じた柔軟な教育プログラムを実施できる学校で、国から指定を受ける必要がある。現時点で公立と私立合わせて10都道府県に24校あり、国は都道府県、政令指定都市に1校以上の設置を目指している。

県教委によると、庁内で設置の可能性などについて検討を進めている。県教委特別支援教育・児童生徒支援課の担当者は「設置主体も含めて、市町村と十分に連携しながら検討していきたい」と話している。

検討状況は、7日に行われた12月定例県議会の代表質問で降籏友宏教育長が明らかにした。降籏教育長は不登校児童生徒への支援について「個々のニーズに応じた受け皿を整備するため、検討を進めている」と説明。「不登校対策を積極的に講じながら誰もが教育の機会にアクセスでき、可能性を伸ばすことができる教育の実現を図る」と述べた。

（2023 年 12 月 13 日付 山梨日日新聞 20 面）

問1 県教委が設置を検討している「夜間中学」は、だれを対象としていますか。

問2 「学びの多様化学校（旧不登校特例校）」の特徴を答えてください。

問3 「夜間中学」と「学びの多様化学校」の設置は、なぜ必要ですか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.